中東、イスラムを考える

11月の研究発表に向け合宿

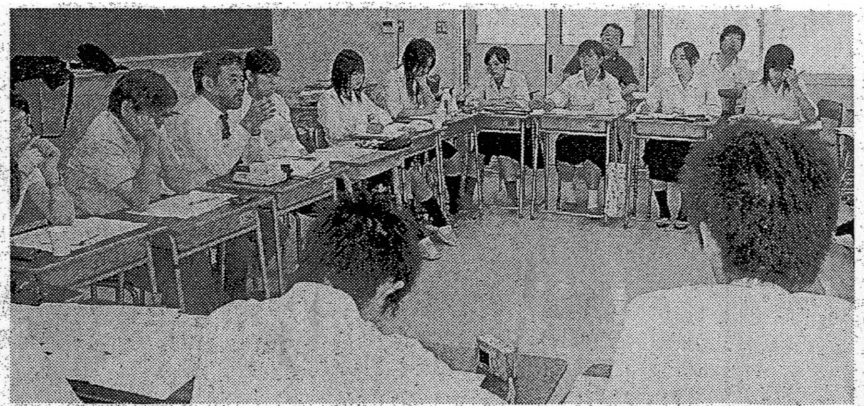
高校生たち大学院教授らと討論

県内の高校生が、中東やイスラム世界について考え、発表する高校生プロジェクトの夏期合宿が5日、山口市で始まり、同市と周南市、下関市の高校生約20人が参加した。

同プロジェクトは、11月に山口市で開かれる日本中東学会の公開講演会に併せて、高校生らが研究発表しようと、6月から始まった。県内在住のイスラム圏出身者や、イスラム圏に住んだことのある日本人に聞き取り調査をし、「山口から見た中東、イスラム」としてまとめる。

合宿には、一橋大大学院教授の加藤博氏や、アジア経済研究所の鈴木均氏、泉沢久美子氏らが参加。生徒たちは、これまでの調査結果をまとめるとともに、「同じイスラムのラマダン（断食）でも、国によってやり方が違うのはどうして」、「男女差や男女の地位にイスラム教はどのような関係があるのか」などの疑問を教授らにぶつけた。6日は中東世界の現状について講義を受ける。

下関南高1年、吉田詩織さん(16)と戸沢彩華さん(15)は「イスラム教徒はテロなど怖いイメージがあったが、話してみると、考え方も日本人と似ているところがあり親しみやすかった」と話した。【住田里花】



加藤教授らにイスラムに関する疑問をぶつける高校生たち